



号外
練馬区版

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988 (代表)
メール press@dpj.or.jp
URL http://www.dpj.or.jp

地方から
民主党、再構築

新体制
スタート!

未来を見据える政党へ



- 馴れ合いじゃない
- 批判だけでもない
- 熟議を通して
意思を表す

練馬区民主党 3つの誓い

1. 批判するだけではなく対案を提示する!
2. 調査を基に議論を尽くす!
3. 世の不条理とは徹底して闘う!

2015年4月26日 練馬区議会議員選挙

白石 けい子 さんに 公認決定!



保育事業歴 21年 × 介護事業歴 13年

白石けい子プロフィール

1954年10月16日生 台東区生まれ・練馬区貴井育ち

【学歴】：練馬区立練馬第二小、練馬区立貴井中、東京都立第四商業、東京都練馬高等保育学院

【経歴】：中野区立保育園勤務、4人の子育てを経て1996年に保育サービスを提供する「ベイビー・プランニング」を開設。2000年より、「NPO法人ケアステーションばかばか」を設立し「保育&介護」の融合施設サービスの提供している。

練馬区議会議員2期（2007年、2011年）保育・介護の現場の経験を活かし、医療・高齢者等特別委員会・委員長、民主党会派幹事長を2年務める。

2014年4月 練馬区長選挙に出馬（次点）

白石けい子（以下白石）…練馬区の人口は71万人を超える一方、世帯数は34万世帯と核家族化、単身世帯化が進んでいる。年齢分布は、少ない若年層が多くの高齢者層を支える逆三角形型になりつつある。こういった状況を踏まえ、練馬区では「まちづくり」をどのように考えていったら良いのか。

田中尚輝（以下田中）…まちづくりは、土木工学的に街をどう作るかというより、いかにコミュニティを形成するか、を考える時期にきていると思う。これまでのまちづくりは、行政主導の建物や道路（インフラ）等が優先され、人間の関係（コミュニティ）が軽視されてきた。これからは、人のふれあいに關心を持ち、関係形成への再構築と創造が欠かせない。すでに、地方では人口が減り商店街はシャッターが閉まり厳しい状況だ。練馬区では、人口が増えており期待できる環境といえる。それだけに、地域単位でコミュニティが作られ

白石けい子セミナーレポート

議会力・区民力・行政力

真の協働とは？

練馬区では、行政主導型のまちづくりから、民間と協働したまちづくりへと方向転換を図ろうとしているが、様々な問題が浮き彫りになっている。保育・介護・防災は？社会福祉・防災の専門家とまちづくりのあり方を徹底討論

2014年12月1日（月）18時30分～20時 サンライフねりま3階研修室



白石 けい子<進行役>

前練馬区議会議員（2期）
保育士。社会福祉主事。練馬区高松に保育と介護の融合施設「ケアステーションぼかぼか」を設立。介護と保育の現場に立った視点から区政への提言を続けている。



田中 尚輝

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・専務理事
NPO に関わる諸問題解決のため、社会的環境整備に精力的に取り組んでいる。現在は、日本最大のシニアのためのネットワーク「地域創造ネットワークジャパン」の立ち上げと、シニアによるNPO 起業への支援、ネットワークづくり、NPO のマネジメントのノウハウの普及に向けて、執筆や全国的な講演活動を行っている。



渡辺 実

防災・危機管理ジャーナリスト
公益社団法人日本都市計画学会、一般財団法人都市防災研究所等を経て、1989年に株式会社まちづくり計画研究所設立。国内外の自然災害被災地で、被災者、被害者の立場にたって問題や課題を、現場体験をベースに伝え、災害報道の検証や防災対策についても国民の立場に立って提言を続けている。2007年より、NPO 法人日本災害情報サポートネットワーク理事長から現在は顧問として活動。

れば、より住みよいまちづくりが実現できると思う。

白石…では、防災の視点から見た場合、「まちづくり」はハード面だけの整備になりやすく、東京都も「災害に強いまちづくり」と、道路の拡幅等を整備しようとしているが、それだけで良いのかと考えるが。

渡辺実（以下渡辺）…確かに、東京都は都市部特有の木造密集地域の火災から犠牲者を少なくするためのインフラ整備やまちづくりに力を入れている。だが、2014年11月22日に長野県北部で発生した地震では、震源地が5kmと浅く強烈な揺れにも関わらず死者は0人だった。この背景には、集落内にあった小さいコミュニティ形成が大きな要因と言われている。つまり、普段から住民の情報を互いに把握し、いざという時に迅速に救助し合う人間関係があったからだということだ。このことはこの都市部でも学ばなくてはならない。なぜなら、災

害発生時、自衛隊や消防・警察（公的機関）はすぐに駆けつけることはできない。その間は、地域で助け合い、互いの命を守るようにしていかななくてはならないからだ。インフラ整備の災害対策も重要だが時間はかかる。今は、地域の絆の再構築を目指すことも考えていく必要がある。

——弱体化する行政。行政サービスのあり方は

白石…練馬区の財政の健全化として行政改革推進プランがあり「公務員削減」もその一つ。一方、職員を削減しても行政サービスを維持していくために非正規雇用者や外部団体への業務委託が増えている現状だが、専門性の高い警察官や消防士などの特殊職種も公務員のため、削減の対象となつては、救命・治安の「安心・安全」への低下を招いてしまうと危惧している。これからの行政の責任と役割をどのように考えるべきか。



田中…行政力は弱ってきていることから、住民の助け合いに委ねようとしている。私の専門である介護保険制度の中でも、厳しい財政状況から制度改正の下、特別養護老人ホームから在宅介護を推進していくのもその一例だろう。在宅となると、人と人との繋がりがより必要となるだけに、そこは、互いに対等の立場で進めていくことが肝要。区の権力と区民の権力が拮抗して知恵を出し合つてこそ地域や区民のサービスの充実につながるかと考える。

渡辺…厳しい財政状況を理由

に市民に多くの責任が押し付けられているように感じている。「自助・共助・公助」という言葉も、阪神・淡路大震災から始まったが、本来、「公助」は自助・共助の前提にあるもので同じレベルで扱われていくのはおかしい。

近年、必ず起きるといわれる首都直下型地震に対して、とにかく時間が無く非常に危機的な状況だ。人が亡くならないと動かない政府に期待はできない。地域や会社などで防災力を高めてほしい。そして、個人としても考えてほしい。災害で亡くなることは本人が不幸だけでなく他人にも迷惑がかかる。

白石…迷惑？「災害で死んでしまうのなら仕方がない」と考えてしまいがちだが……。

渡辺…自然死と災害死では雲泥の差がある。だからこそ災害時の生命は守らなければならぬ。まず、「守れる命」があると考えるべき。公としてやるべきこともあるが、個人でやれることもたくさん

ある。例えば、地域には、共助の担い手となる介護サービス事業系の施設で防災体制の整備をしている事業所は少ないのも現実。従業員や利用者の生命を守る体制づくりは急務と考えほしい。このように、地域からもできることがあるはず。

白石…個人個人が命を守る方法として行政がやるべきことの一つに、住民に情報提供することも重要な業務と考えるべきでしょうね。練馬区では、地図上で様々な情報を管理できる*GISを整備している

が「地理に関することだから」と土木部が管理している。区長の直轄にして横断的な活用を行い、地域に提供することこそ「自助・共助」の仕組みにつながると感じている。

*GISとは…地図上で、高齢者世帯の存在や木造建築・地質の特長などの情報を地図や航空写真の上にその情報を重ね合わせ管理ができ、一目でわかるシステム。

——議会力・区民力。行政力がみつめていく役割とは

白石…最後に、それぞれが考

えていくべき姿勢や役割は何でしょうか。

田中…行政主導型でのまちづくり・コミュニティはもう無理。NPOのような意識を持った団体や区民が自発性を持ち合うことが求められていく。そのためには、納税者としての区民がまずは関心を持ち、格差が広がっている現状にメスを入れることや政治家を動かすぐらいの気持ちが必要。自治の根源は区民主動であるべきなのだから。

渡辺…これからの日本は、もう3月11日以前に戻ることはできない。練馬区も同様で、限られた財源の中で、どのような優先順位で必要な所に配分していくか。政治家として議会人がどのようなかじ取りをするか、でしょうね。

白石…それぞれが自分の街を見つめ、危機管理を持ち合うこと。行政のやるべきこと。議会人としても襟を正していく時代と感じました。ありがとうございました。

統一地方選挙に是非注目を！

～区議会議員の選択は生活に直結します～

4月19日より、地方議員選挙（4月26日開票）が行われます。練馬区では、50議席に対し約70名近い候補者が予想されます。候補者のポスターには〈保育・介護・年金・防災……〉など、いかにもそれらしい文言が並びます。しかし、

言うは易しで、実際に政策を実行できる候補者なのか、現場の経験者で実情がわかっているのか——など、ぜひ有権者の皆様には、ポスターの文言だけでなく、候補者のことを知り、機会があれば直接質問をするなどして、どの候補者

が良いか見極め、投票していただければと思います。区議会議員の仕事は区民の生活に直結しているのです。



「公助」のあり方を考える

～セミナーを終えて～

「自助・共助・公助」といった言葉がいろいろな場面でよく使われています。「公助」の役割はインフラなどのハード面だけではなく、地域コミュニティ形成・情報提供・備災・二次災害対策まで多岐に渡ることから、まず公助、次に自助・共助と、それぞれの確立が求められていることを改めて理解しまし

た。「いのち」を守るべく、今一度、行政のなすべきことを見つめ、意見をしていきたいと思いました。

「練馬区内に1050以上ある介護サービス事業者は、発災後には地域の大きな支え手となる社会的資源である」との考え方は、現場に携わる身として考えさせられました。これからも「保育・介



護」の一事業者としての経験を活かし、より福祉現場の声を届けていきたいと気持ちを新たにしました。

<進行役 白石けい子 談>

事務所開設のご案内

「白石けい子とともに歩む会」として、この度、下記のところに、事務所を構え地域に密着した活動をしていくこととなりました。どうぞよろしく願います。

期間：平成27年4月1日から4月30日

10時～16時

場所：練馬区高松2の27の26 政木ビル1階

マルエツ高松店 横

駐車場あり（コインパーキング）

<編集後記>

練馬区の平成27年度一般会計予算額が2445億9718万円と前年より約100億円増となることが発表されました。人口規模が71万人へと拡大したことから区民税等の増収見込みも加味されているものです。

練馬区では戦略計画「(仮)区政運営の新しいビジョン」を発表するなど積極性を見せています。しかし、社会保障関連経費も増大していることから問題が山積みなのが現状です。

大切な区民の税金を有効に活用するためにも、行政主導から区民主導へのシフトが求められています。

練馬区議会民主党・無所属クラブ

これまでの主な取り組み

- ・企業と連携した防災対策の充実について
- ・民間企業と連携した高齢者見守り事業について
- ・地場農産物の積極的活用について
- ・ペット同行避難策の整備について
- ・新型インフルエンザ対策の強化について
- ・保育士、看護師、介護士不足対策について
- ・ねりまシティマラソン（こぶしまラソン）について
- ・元気高齢者が活躍できる場の拡充について
- ・障害児・障害者も地域で暮らせる仕組みについて
- ・待機児童対策と子育て家庭支援の拡充（充実）について
- ・交通空白地域の解消について
- ・空き家対策について
- ・婚活支援について
- ・税収と財政の健全化について
- ・情報公開と区民との合意形成について
- ・省エネ活動の推進について
- ・町会掲示板の風雨対策について
- ・子どもの遊び場の拡充について
- ・自殺防止・不登校対策について